

者数は300万人を超えています。

平成21年度には、NPO法人「知的資源イニシアティブ」から「Library of the Year 2009」優秀賞を贈られました。受賞理由は、奈良がもつ豊かな歴史と文化に着目し、伝統文化産業やNPOとの連携を進めるなど、従来の公共図書館サービスを超えた新たな歴史・文化との結びつきを模索し、成功している点が評価されたことによります。

公文書館機能の面では、奈良県行政文書、旧郡役所文書を中心に12,000点を所蔵し、明治期以降の県政動向を系統的に追うことができます。平成21年3月には明治・大正期の6,695冊が県指定文化財の指定を受けました。

古文書は県内各地の地方文書を中心に30,000点を有し、これらの資料群と図書館資料を併せ持つことによって、奈良県に関する高度で専門的なレファレンスサービスの提供と、地域の歴史的な調査・研究に対応しています。

今後は、地域の歴史資料の保存と一層の活用をしていただくために、原資料のマイクロ化やデジタル化を積極的に進め、地方からのデジタルアーカイブ構築を目指します。

なお、平成24年5月には日本で最初の公開図書館といわれる芸亭院の開創1250年顕彰図書館振興研究集会の開催を予定しています。

奈良県立図書館情報館

■多機能を備えたハイブリッド図書館

奈良県立図書館情報館は、平成17（2005）年11月に「想いをかたちに：知的交流の舞台として進化する図書館」を基本コンセプトに、情報の創造・提供・仲介を行う情報センター、奈良県の歴史／文化に関する専門図書館、県内の中核的な公共図書館を基本機能とする総合的な資料・情報拠点として開館しました。

当館は、平成23（2011）年11月で開館から6周年を迎えました。この間、公文書や古文書といった文献資料と電子情報・オンラインネットワーク情報を活用しての資料情報サービスや、県内公共図書館等の横断検索目録・資料搬送システム等による資料・情報支援を積極的に行ってきました。また、情報創造・情報発信拠点として、利用者のニーズを開拓し、創り出すための様々な広報、イベント活動にも取り組んできました。開館以来の入館者は連日2,000人程あり、今年の7月で入館



全国から多数のご参加をお待ちしております。

(鈴木陽生)